

# 知床世界自然遺産登録から 10年を迎えて

～記念事業の取組～



写真1

ウトロ側海上から知床連山を望む

北半球で最も低緯度で流水を観察できる知床は、海と陸の相互作用によって形成される特異な生態系と希少な動植物からなる生物多様性が高く評価され、平成17年7月に日本で3件目の世界自然遺産として登録されました。知床の世界自然遺産地域の陸域の94%は国有林であり、林野庁北海道森林管理局ではこの地域のすべてを森林生態系保護地域に指定し、厳格な保護管理を行っています。

## 周年記念事業 キックオフイベントの開催

本年7月には遺産登録から10周年を迎えたことから、北海道森林管理局では、この節目に知床の価値や保全の意義を再認識するとともに、未来へ引き継いでいくために、関係機関や地域の方々と連携した記念行事の開催などに取り組まれましたので主なものをご紹介します【写真1】。

平成26年6月1日、残雪の羅臼岳を望む知床峠の展望広場において、記念事業開始式として「知床峠」の新標識の除幕を行い、知床の魅力や価値、保全の意義を広く発信する一連の記念事業の開始宣言を行いました【写真2】。

同日は、北海道森林管理局知床森林生態系保全センター主催の「幻のポンホ

口沼を見に行こう」と題した自然観察



写真2

知床峠の新標識の除幕と羅臼岳

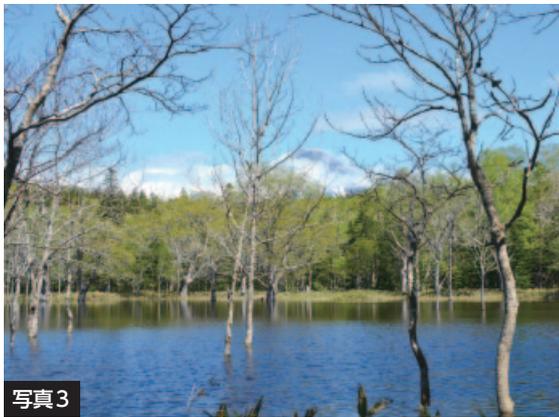


写真3

ポンホロ沼から羅臼岳頂上を望む

会を一般の参加者を対象に行いました。水源が雪解け水のため盛夏には消失する幻の沼までご案内し、ポンホロ沼から頂上に向うと雲が被る羅臼岳など、知床の雄大な自然の魅力を体感し



写真4

記念式典でご挨拶する古久保局長(当時)

ていただきました【写真3】。このほか、関係機関による自然観察会など複数のイベントが開催され、2ヶ年に跨がる記念事業がスタートしました。

平成27年7月4日、遺産登録から10周年、国立公園の指定から50周年を迎えることを記念して、「知床国立公園50周年・世界遺産10周年記念式典及び講演会」を斜里町ゆめホール知床で開催し、地元の方々を中心に約600人が参加しました。

主催者として、望月義夫環境大臣、古久保英嗣北海道森林管理局長(当時)、北海道から高橋はるみ知事等、来賓の皆さまのご列席のもと、これまでの知床地域の歩みなどを映像で振り

## 記念式典と 知床世界遺産セミナー

知床世界遺産セミナー

返るとともに、この10年間の科学委員会(注)での取組などの報告がありました【写真4】。

(注)世界遺産に登録された知床の自然環境を把握し、科学的なデータに基づいて陸域と海域の統合的な管理に必要な助言を得るため、学識経験者による委員会



写真5

スリット化など改良した治山ダム  
(イワウベツ川支流ピリカベツ川)



写真6

オシンコシンの滝 ミス日本みどりの女神 佐野加奈さん



写真7

エゾシカ防護ネット巻き作業体験

翌日7月5日には同ホールで、知床世界遺産セミナー「知床世界自然遺産10年の歩み・科学委員会からの報告」(NHK・環境省・斜里町主催)が開催され、知床科学委員会委員長の開催され、知床科学委員会委員長の桜井泰憲(さくらい やすのり)北海道大学大学院特任教授らによる知床の自然管理や観光等利用の調整等の報告、知床森林生態系保全センター(ちまきもり)荻原裕(おぎはら ゆたか)所長からサケ科魚類の遡上や産卵環境を改善するための治山ダムのスリット化や魚道の設置などの河川工作物改良の取組や成果などの報告をしました【写真5】。

知床の自然のすばらしさや雄大さを多くの人に知っていただくため、5月31日～6月1日には、2015年ミス日本みどりの女神で「みどりの広報大使」でもある佐野加奈さんが訪問されました。北海道森林管理局が知床で取

り組んでいる治山ダムの改良箇所やエゾシカ捕獲囲いワナなどを見学したほか、知床峠、カムイワッカ湯の滝、オシンコシンの滝など知床を代表する景勝地も訪れました【写真6】。

### 多様な関連イベントを開催

記念イベントについては、国・道等の地元を含め多数実施されている中、北海道森林管理局として次の取組を行いました。

6月27日、網走南部森林管理署主催の「エゾシカ食害防止体験」を開催し、東京農業大学オホーツクキャンパスの学生と教員の11名がエゾシカが樹皮を食べる根元付近を保護するためのネット巻き作業を実施しました【写真7】。

7月1日～24日には、札幌市内の北

海道森林管理局庁舎ロビーにおいて、記念パネル展を開催し、知床世界自然遺産での保全管理や、河川工作物改良の取組、ヒグマ・シマフクロウなどの生態を紹介するパネルを展示しました。

7月25日には、根釧東部森林管理署主催の「羅臼湖自然観察会」を開催し、一般の参加者が羅臼湖までの湿原内を散策し、湿原特有の植物や野鳥などを観察しました。

### 知床の世界自然遺産を未来に引き継ぐ

世界自然遺産登録から10年を経過した知床では、エゾシカの生息数の増加による食害の深刻化、ヒグマと人との軋轢、さらにはユネスコ世界遺産委員会からの勧告(ルシャ川の河川工作物の改善・検討等)など、課題が山積している状況にあります。

北海道森林管理局では、知床の世界自然遺産としての価値を後世に引き継いでいくため、これらの課題について、科学委員会や環境省、北海道、地元自治体や知床財団など関係機関との連携や情報共有を強化し、地域関係者等との意見交換などを積極的に進め、国有林の森林生態系保護地域である知床世界自然遺産の保全管理に取り組んで参ります。